

水の文化 満水の タイ

まんすい

タイ
ランド



高谷好一「雨期の世界単位」
 柿崎一郎「水辺空間の価値を変えた交通モード」
 中島正博「水資源 開発と保全のあいだ」
 スワッタナー・タダニティー
 「開発におけるテクノロジーと習慣の共存」
 アジアまち居住研究会「タイ中部の水辺の住いとくらし」
 編集部「満水のタイ 写真紀行」
 水の文化楽習実践取材
 「輪中の智恵を伝えるリスク・コミュニケーション」
 編集部「水を治める力」
 所澤さやか「微笑みの国 タイ」
 古賀邦雄 水の文化書誌「アジアの水」

13

水の文化 February 2003 No.

水の文化
2003
13



ミツカン水の文化センター

表紙上：バンコクの北150kmシンブリー郊外の高床式住居。
 表紙下：ロプリー川の川面に面した住居群は、ミカン箱のような足に板を渡した棧橋サバーンを雨期の生活道路にしている。
 上：シンブリー付近は、雨期に街全体が水没するところがある。写真は水がほとんど退いた11月。
 下左：バンコク、ノイ水路沿いの住居は、高床の上にもう一段、小さな床を作って水位の上昇に対処している。
 下中：都市郊外では、テンダー（小さなボート）は木製が一般的だが、FRPや鉄板製もたまに見かける。盛り土した道路までと利用距離は非常に短くなったが、やはり雨期にはテンダーが必需品。
 下右：砥石に水（黄バケツ）をかけて使うところは日本と同じ。砥石は粗砥と中砥を表裏に張り合わせたもの。砥粒が出てくるまでは研がないようだ。「石鯨（白ボール）をチョット使うのがコツよ」と彼女。この日は行事に備えてお寺の包丁に磨きをかけている。

